

【巻頭言】



巻頭言

廣瀬通孝

理事（学会誌担当）



このたび、VR学会の学会誌編集委員会の委員長に就任させていただきました。本号より、学会誌は、学会誌委員会のもとで刊行されることとなります。これまでの学会誌は、基本的にはニューズレターの総集編的性格であり、学会の活動（大会、総会など）の記録や、会員情報などがその主たる内容であったわけですが、編集委員会の発足とともに、独自の記事内容を増やしていきたいと思っています。

論文誌との切り分けは、比較的明白だと思いますが、アカデミックな論文というスタイルに必ずしもなじまない情報、たとえばプラグマティックな技術情報などは、学会誌の記事というスタイルで拾いあげていく計画です。たとえば今回、文化フォーラムの記録を掲載しましたが、この際に鹿児島NTTのご厚意により、会場の屋久島環境文化村センターと東大とをISDNによって結合し、臨場感通信のデモンストレーションを行いました。本号においては、

ここで使用したシステムの技術的内容についても記事を追加いたしました。

また、ぜひ充実したいのが、中立的立場からの製品紹介の記事です。商品広告とは別に、もう少し技術的な内容を盛り込めればよいと思います。書評欄に並列する形でこういう情報が用意できれば、会員へのサービスとなると信じています。

会誌編集委員会は、比較的若手の方々を中心に編成いたしました。（最終ページ参照）すでに2回の会議が開催され、次号以降の本格的な内容整備について活発な議論が行われているところです。学会誌の骨格については色々な議論があるところだと思います。会員の皆様方のご意見をできるだけ取り入れる方向で編集作業を進めたいと思っていますので、ご意見を (vrjedit@hip.iml.u-tokyo.ac.jp) までいただければと思います。

廣瀬通孝 (HIROSE Michitaka)

1954年、神奈川県生まれ。東京大学機械情報工学科助教授。映画などの二次元画像から三次元の仮想空間をつくりだすシステムや、触覚ディスプレイ、嗅覚ディスプレイなど、さまざまな角度からバーチャル・リアリティのシステム開発・研究をおこなっ

ている。最近では、東京大学IML(Intelligent Modeling Laboratory)において、スーパーコンピュータ用の大規模VR装置であるCABINの開発を行なっている。著書に『技術はどこまで人間に近づくか』、『バーチャル・リアリティ』、『電脳都市の誕生』などがある。